

平成 22 年 9 月 6 日

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告（様式 1）

①基本情報

氏名：井上 貴恵

所属：アジア文化専攻イスラム学科

学年：修士 3 年

派遣形態：推奨プログラム

②国名、プログラム名等

フランス、パリ、パリ高等師範学校、パリ高等師範学校夏期大学

France, Paris, l' École Normale Supérieure, Un été à l' École Normale Supérieure

パリ高等師範学校夏期大学

Un été à l' École Normale Supérieure

③派遣期間

7 月 16 日～8 月 8 日（帰国日 8 月 9 日）計 25 日

④研修スケジュール

授業 (和名)	FLE (français langue étrangère) 外国語としてのフランス語	Philosophie 哲学	
	Anthropologie 人類学	Atelier d'enquête de terrain アトリエ 実地アンケート	
行事 (和名)	Soirée d'ouverture 開校パーティー	Soirée internationale 国際交流パーティー	Soirée dansante ダンスパーティー

注

FLEに関してはレベルが5つに分かれていた。その他の授業はレベル分けはされていない。
実地アンケートのアトリエは、分野としては社会学に入り、パリの様々な地域で住環境に
関して住民にアンケートを行うというもの。

平成 22 年 9 月 6 日

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告（様式 2）

①基本情報

氏名：井上 貴恵

所属：アジア文化専攻イスラム学科

学年：修士 3 年

派遣形態：推奨プログラム

②国名、プログラム名等

フランス、パリ、パリ高等師範学校、パリ高等師範学校夏期大学

France, Paris, l' École Normale Supérieure, Un été à l' École Normale Supérieure

パリ高等師範学校夏期大学

Un été à l' École Normale Supérieure

自己評価

研究計画概要

私は大学院において、小学校から学び続けているフランス語、あるいは英語、ペルシア語、アラビア語、日本語という 5 つの言語を使用し研究活動を行っているが、イスラムという宗教を語る上で、これら言語に加え、思想、哲学、文学といった知識は無くてはならないものである。またフランス人イスラミスト（オリエンタリスト）がフランス文学に与えた影響や、フランス文学作品に見られるイスラム神秘主義の影響、相違について研究分野の更なる深化に必ず役立つものと考えます。

実際の成果

今回の授業においては宗教学、あるいはイスラム学と題した授業はなかったものの、人類学においてはイスラム圏についての知識が得られたり、アトリエではムスリムの多く住む地域等に実際に足を運び、フランスにおけるムスリムの生の声を聞く事が出来た。イスラム研究者だからという事で、特に取り計らってそのような機会を与えてくれた事は非常にうれしかった。また海外の研究者で、自分と研究分野が近い人との交流が生まれた事、ムスリム圏から来た友人から今後の研究についてアドバイスを得られた事は、予想外の救いであった。またフランス語に関し、さらに専門的な、修士レベルで必要とされるものとはどの程度であるのかが体験出来た。現地では十分な資料収集も出来、修士論文等今後の

研究に役立つ資料を新たに発見することも出来た。

感想

きつかった、というのが一番印象に残っている。今回でフランスは四回目、今までフランスの語学学校に通った経験から比較しても、相当ハードに勉強をさせるプログラム、あるいは学校であるのだと思った。学校に集まってくる生徒たちも、多くがオックスフォード、ケンブリッジといった名門校で、終始スノッブな雰囲気、世界のエリートの集まりという感じだった。フランス語のレベルは相当に高く、ほぼネイティブという子もチラホラ、会話力に自信がない、あるいは今回がフランスに来るのは初めて、という人は見られず、ほぼ全員が留学経験があり、またフランス語に関しても幼い頃から学んでいるという人が多かった。数年前から始まった夏期大学講座ではあるが、年を重ねるにつれ、選抜のレベル、あるいは参加者のレベルが上がっているのではないだろうか。ネイティブの授業、会話の授業が皆無な東大からいきなり放りこむのではレベルの差が愕然としていたので、夏期大学が始まる前にどこかフランスの語学学校での研修等準備を含めたフォローがあれば良かったと思う。航空券に関しても、各自が好きなように手配をする方が良かった。学校からの奨学金が出るという事で、報告書等の義務が発生するのは当然であると思うが、その他自分が責任を持つべき航空券の手配等で妙に奨学金に縛られて集団行動を強いられたり、あるいは振り回されたりというのは反って奨学金の意味がないと思った。限られた金額の中で自由に行動させ、様々な様式を経験させて報告書を作った方が、5人とも似たような報告者が返ってくるよりも有意義なのではないだろうか。またこのようなプログラムを今後増やしていく予定であるなら、留学用のセンターなり何なりの専門の機関を立ち上げるべきであると思う。主要な大学の中でこれを設置していないのは東大くらいのものだし、今回の学校側の手際の悪さには正直びっくりした。

良かった点としては、学部を越えた交流が持てた事である。全く関係のなかった学科の皆と海外で一緒に暮らしたことで、他学の友人との絆が生まれたし、これからも交流は間違いなく続いて行くだらうと思う。フランス滞在中、私が体調を崩した時も本当に良く面倒を見てくれた。

結論としては、世界のエリートたちに実際に触れ合ってみて、力の差を感じる事も多かったが、逆にそれが励みになったことも事実であり、今回この夏期大学に参加した事が自分の今後にはいやでも影響を及ぼしてくるだらうと思う。文句ばかり書き連ねたが、来年以降の更なる進化の役に立てるよう正直に書いた。